

論文内容の要約

論文名	Relationship between Severity of Aseptic Meningitis and Cerebrospinal Fluid Cytokine Levels (無菌性髄膜炎の重症度と髄液中の各種サイトカイン値との関連に関する研究)
氏名	匹田 典克

【目的】無菌性髄膜炎は一般に予後良好で、一過性の疾患として考えられているが、重症例では、重篤な症状が遷延することも経験される。その病態については不明な点が多く、現時点でも一貫した有効な治療法は存在しない。我々は、無菌性髄膜炎の病態の解明に加え、重症化に関わる因子について検討するため、重症度のスコア化を行うとともに、宿主の免疫反応を評価する目的で髄液中のサイトカインの測定、重症度との関連を解析した。

【対象】平成22年10月～平成25年10月までに当院もしくは関連病院で入院し、髄液検査を施行され、無菌性髄膜炎と診断された23例（ムンプスウイルスによる髄膜炎10例、その他のウイルスによる髄膜炎13例）、また対照群9名の合計32名を対象とした。

【方法】対象例の入院中の記録を後方視的に解析し、最高体温、発熱期間、嘔吐期間、頭痛期間、項部硬直、臥床期間をもとに重症度のスコア化を行った。また、入院中に採取した急性期の髄液検体のサイトカイン濃度をBioRad社のSuspension Array Systemを用い、測定した。

【結果】ムンプスウイルスによる髄膜炎群は、その他のウイルスによる髄膜炎群よりも有意に重症であった。髄液中のIL-4, IL-6, IL-8, IL-10, G-CSFは両髄膜炎群で対照群よりも有意に高値であった。特にムンプスウイルスによる髄膜炎群ではIFN- γ は有意に高値で、その他のウイルスによる髄膜炎群とも有意差を認めた。各サイトカインは重症群でより高い傾向が認められた。

【結論】我々は初めて無菌性髄膜炎の重症度のスコア化を行い、重症例でより高サイトカイン状態を認め、症状との関連が示唆された。原因別の髄膜炎重症度の比較、髄液中のサイトカイン濃度との関連が評価できた。無菌性髄膜炎の病態の理解、バイオマーカーとしてのIFN- γ などの可能性が拓かれた。

